

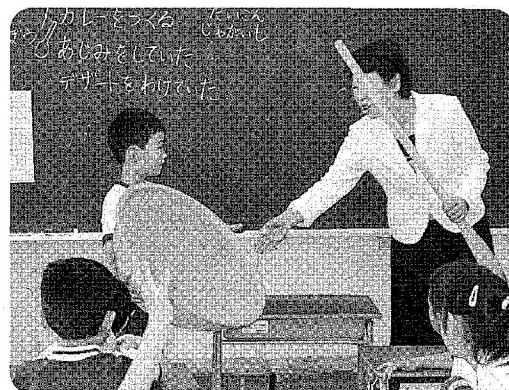
「食」についての理解を深め、日常生活で実践していく力を高めるためには、学級での指導の充実を図るとともに、「食」に関する情報を家庭や校内に積極的に発信していくことが大切です。今年度は学校給食を核として、学校と家庭、子供同士が連携を強めていくことを目指しました。

1 年生の実践

1 学級活動 「どんなふうに食べたらよいか考えよう」

活動内容

- 給食を作っている様子をビデオで見たり、実際の調理器具にふれて考えたりする中で、調理員さんの思いを考える。
- 授業後は、子どもの気づきなどを「食育だより」で紹介し、家族で一緒に振り返る。



【子どものふりかえり】

ちょうりいんさんは、みんながたべられるようにところをこめてつくっている。だからのこさずたべるようにがんばりたいです。

【保護者の感想】

調理員さんが毎日作ってくれる給食は、私たちの想像よりはるかに多くの手間がかかっていることを知りました。そうした努力に感謝しながら、最後まできちんと残さず食べることが大切ですね。

2 給食試食会



活動内容

- 給食の準備から後片付けまでの子ども達の様子を見て、給食指導の実態を知ってもらう。
- 子どもと一緒に会食することによって、正しい箸の使い方などのマナー、好き嫌いなどの子どもの様子を知ってもらう。
- 食に関する指導の全体計画、食に関する指導目標、学校における学級活動、食に関する標語、給食委員会の取組等を紹介する。

【保護者の感想】

試食会という場があることで、子どもが学校でどんなふうに給食を食べているのか、友だちとかわっているのかということがよく見えました。

嫌いなものまで食べていたので学校給食はすごいと思いました。

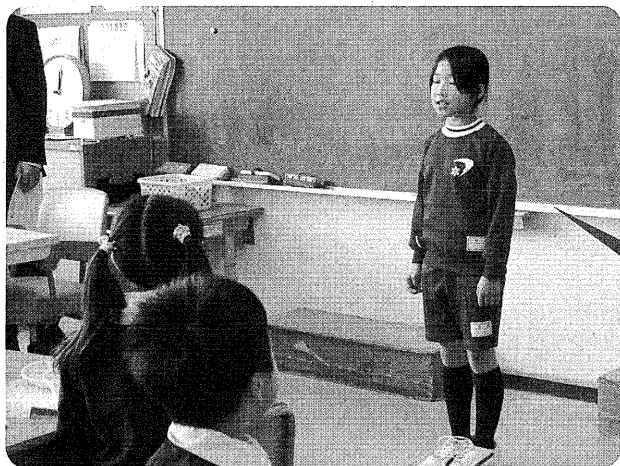
委員会の実践

バックン給食委員会

活動内容

- 委員会のメンバー13人がクラスの担当や毎日のクラス訪問の活動内容を決めて、給食準備の時間に指導する。
- 盛り切りのお手伝いやマナーのよびかけをすることによって、給食の残量を減らしたり、マナーの指導をしたりする。

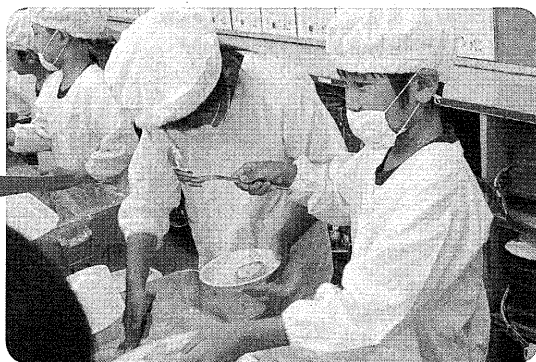
ご飯はね、このくらい盛るといいよ。しっかり盛っているね。
マスクも忘れずにつけて、仕事をしようね。



バックンきゅうしょくいいんかいのおねえさんにおしえてもらったから、じぶんたちでもじょうずにできるようになってきたよ。



食器の置き方を見ていました。ほとんどの人が正しく並べていたのでよかったと思います。これからも続けてください。



バックン給食委員会の活動を、高学年が家庭科や学級活動、給食で習得した知識・技能を、低学年の指導の場として活用している。一人一人が低学年に役立つことを考え、主体的に取り組むことによって自分の知識、技能等を活用するよさを子ども達は実感している。

栄養教諭が授業や委員会活動等に関わることによって、学校給食を生きた教材として、給食時間の指導はもとより、学習につなげるための献立や食材の使用を意図的に食事内容に取り入れることができる。また、学校での食育の取組を家庭に発信し、共通理解を図り、学校との協力体制を整えることが食育を効果的に進めるうえで大切なことである。